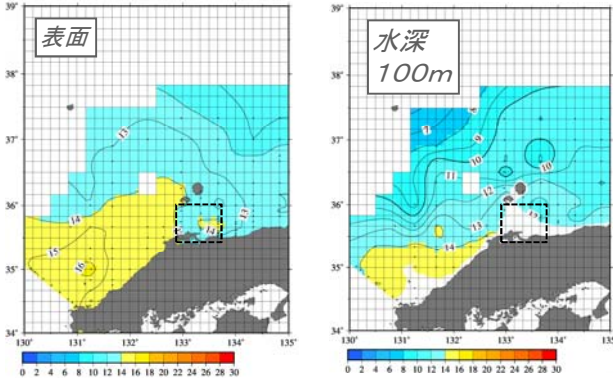
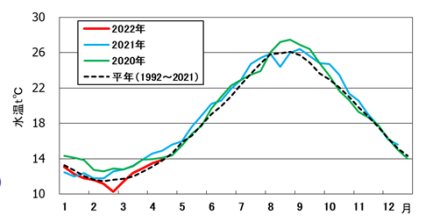




鳥取沿岸の水温

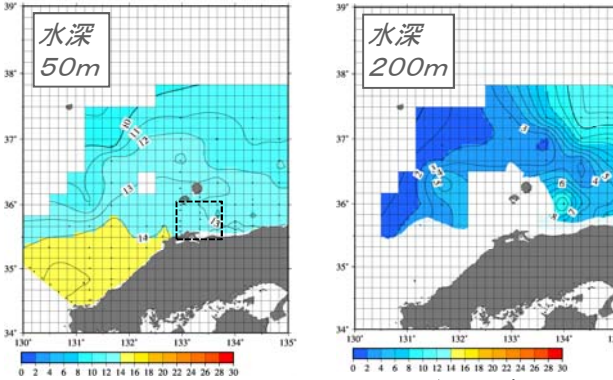
鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

4月中旬 13.9℃
平年より 0.1℃高め



隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の水温は13～14℃台で、平年(直近30年)並みの値を示しています。

水温は12～13℃台を示し、平年並みの値を示しています。



水温は12～13℃台を示し、平年並みの値を示しています。

鳥取県長尾鼻沖北緯36°付近に8～9℃の暖水域、鳥取県東部-兵庫県沖北緯37°以北に8～11℃台を示す暖水域があります。

水産試験場

マイワシの稚魚調査を行っています

マイワシは海洋環境の変動により、資源量が大きく増減することが知られています。鳥取県水産試験場では、マイワシの産卵期である春季に稚魚調査を実施し、資源量との関係を把握する試みを行っています。

調査は本場の試験船「第一鳥取丸」(199トン)を用い、3～5月に同じ8調査点でニューストーンネットという表層の稚魚を採集する調査漁具を用い行います。



東鳥沖(水深45m)で4月19日に採集されたいわし類の稚魚

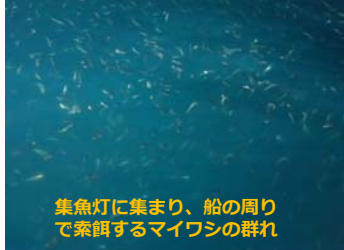


ニューストーンネット

今年度からは海水中に含まれるマイワシのDNA(遺伝子)からマイワシがその海域を回遊しているかどうかを把握する試行を(国研)水産研究・教育機構と一緒にを行っています。なお、今回は試行ということで、各調査点の水深0,10,20mから1%の海水を採水したものを試験サンプルとしています。

この1%という量はかなり少なく、DNAが検出できるかも分かっていないサンプル量です。今年3,4月の本調査は、イカ漁場形成調査も併せて実施したので、これを活かし、実際にマイワシの群れが集魚灯で集まった際の海水も採水し、サンプルの解析をお願いしています(これで検出できればサンプリング方法の見直しが必要)。

今後につながる面白い結果が得られることを期待しています。



集魚灯に集まり、船の周りで索餌するマイワシの群れ

令和4年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

潮に夢を

代表取締役 前橋 知之

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

共和水産株式会社

4月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水 隠岐諸島北方 山陰-若狭沖冷水

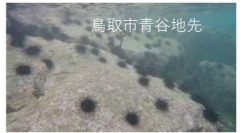
鳥根沖冷水域	山口県沖N35° 50'以北に10℃以下の冷水域が認められます。
隠岐諸島北方の冷水	N36° 20'-N37° に10℃以下の冷水域があり、その北方に鳥根沖冷水域の一部が認められます。
山陰-若狭沖冷水域	鳥取県沖N38°以北に10℃以下の冷水域が認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かうと考えられます。鳥根沖冷水に沿って北東へ向かう流れと、鳥取県-兵庫県沖を11℃等温線に沿って東方に向かう流れが認められます。

*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています。是非ご利用ください。

水産振興課・漁業調整課

ウニ被害藻場緊急回復対策事業を開始します！

令和3年10-11月に県内の沿岸漁業者を対象に藻場の状況について聞き取りを行ったところ、県内全域でムラサキウニが大量発生しており、その被害による藻場の衰退が明らかとなりました。中には藻場の面積が1/4程度まで減少した場所もあり、早急な対応が必要となっています。



鳥取市青谷地先

そこで、今年度から「ウニ被害緊急回復対策事業」を立ち上げ、県内全域でウニ類の集中駆除を開始します。また、今年度は藻場保全活動の具体的な行動計画をまとめた鳥取県藻場造成アクションプログラムⅢの策定を予定しており、その中でもウニ類の駆除を重点目標に掲げています。

ウニ類の駆除を含めた藻場保全活動を促進させることで、衰退した藻場環境を回復させ、豊かな漁場環境の創出を図ります。

ウニ被害藻場緊急回復対策事業

実施期間：令和4-6年度(3年間)
※駆除は1、2年目に実施
効果把握を1-3年目に実施
実施主体：鳥取県(事業費負担：県2/3、市町村1/3)
委託先：鳥取県漁業協同組合、田後漁業協同組合、赤碓町漁業協同組合
実施内容：①潜水漁業者等によるウニ駆除
②一般ダイバーによるウニ駆除(ダイビングショップと連携)
実施目標：毎年、各地区でウニ駆除を5回以上実施し、生息密度5個体以下/m²を目指す



ウニ駆除の様子

栽培漁業センター

日野川でアユの遡上が始まりました！

日野川の下流部に位置する車尾堰堤では、3月下旬ごろから多数のアユが遡上する姿が確認されています(写真1)。昨秋に生まれた仔魚の流下時期と、美保湾においてアユの餌となる動物プランクトンの生息量が多い時期が一致しており(図1)、海洋生活期のアユの生残状況が良好だった(図2)ため、多数の稚魚の遡上につながったものと考えられます。



写真1 日野川を遡上するアユ(4/7撮影)

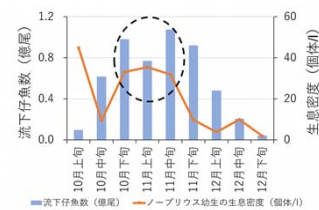


図1 令和3年秋の仔魚流下時期と動物プランクトンの発生量

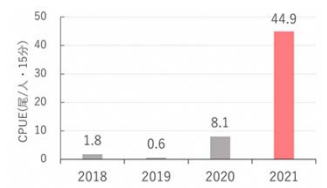


図2 海岸でのアユ採集量(10～12月平均)

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330